

「PLAN75」

吉田 眞人

港北ニュータウンにあるシネコンに、平日の午後行った。映画館で映画を見るのは実に久しぶりだ。入場料は1900円、ただし60歳以上は1200円、不公平だと若い人から不満が出ないのかと心配になる。座席指定も支払いも全て当節流に自動販売機で行う。

ガラガラの入りかと思っただが、約110座席のうち6割方が埋まっている。題名からしてほとんどが年寄りだろうとの予想も外れ、若い観客も結構いたことには驚かされた。

2025年、増えすぎた老人が国の財政を圧迫し、皺寄せがきていると恨む若者によって、老人が襲撃される事件が相次ぐ。これを受け政府は、高齢化社会の問題解決のため、75歳以上の老人が死を選択することができる制度、通称「プラン75」を設ける。勿論反対の抗議も起き、様々な議論をよぶものの、このプランは施行される。

「プラン75」を選択すると、一時金が支給され、さらに個々人に担当者がつきメンタルサポート等がなされ、心の平安が計られる。一定期間の後、ある施設にて投薬により静かに最後を迎え、埋葬も丁寧に行われ、プランは終了する。

主演は倍賞千恵子。夫を亡くした独り身で、プランに応募する。好演であるのも当然で、本人の実年齢も82歳、全く違和感なし。映画の中ではサポート役の若い担当者の苦悩も描かれ、全体として苦いトーンとなっている。

脚本兼監督の早川千絵は、まだ45才。若い人が重いテーマを真面目に作ったな、というのが印象である。ただし、このようなテーマはもっとユーモアないし夢のある形で描いて欲しいものだ。例えば…

薬学の発展により、特殊なユータナシア薬が発見される。ある年齢以上の人が飲むことを許され、見る物、聴く物全てバラ色となり、肉体も若返る。ただしこの薬の有効期間には限度があり、ほどなくユーフォリアも終わる。本人は竜宮城生活が続くと思いついてる中で、突然の終焉が訪れる。宗教的陶酔の内に、あるいはドンファン希望者には腹上死として。

(2022年7月28日)